

ナス養液栽培におけるトマト強勢台木の特徴



写真 定植時の苗の様子

(左から、実生、トナシム、カイゼル、エンペラドール)

表1 台木の違いがナス‘土佐鷹’の生育に及ぼす影響^{Z)}

試験区	主枝長 (cm)	節数 (節)	平均 節間長 (cm)	茎径(mm)		平均 摘心日	葉の大きさ ^{V)} (cm)	
				主茎 ^{Y)}	主枝 ^{X)}		葉長	葉幅
エンペラドール	126.8	15.5	8.2	19.8	11.6	2017 10/10	38.7	22.4
指数 ^{V)}	(98)	(75)	(131)	(117)	(146)		(120)	(116)
カイゼル	128.0	15.5	8.3	19.4	12.1	2017 10/10	40.8	24.0
指数 ^{V)}	(98)	(75)	(132)	(115)	(153)		(127)	(124)
トナシム	136.0	18.4	7.4	19.6	9.5	2017 10/26	36.0	22.1
指数 ^{V)}	(105)	(89)	(118)	(116)	(120)		(112)	(114)
実生 (対照)	130.0	20.8	6.3	16.9	7.9	2017 11/2	32.1	19.4

Z) 調査株数は8株(4株×2反復)。調査日は10月18日(定植日は8月23日)。Y) 第1分枝直下の茎径を測定。X) 各主枝の平均値、第10～15節間の平均的な茎径を測定。W) 各主枝の第10～15節の最大葉を測定。V) 対照を100。

当センターでは、養液栽培および環境制御技術による、ナス促成栽培の多収生産技術の開発に取り組んでいます。今回はナス‘土佐鷹’にオランダで育成されたトマト強勢台木(以下強勢台木)‘エンペラドール’、‘カイゼル’、日本のナス台木‘トナシム’を接木した場合、接木をしない実生栽培での生育および可販果収量について比較検討しました。

実生(対照)と比べて強勢台木‘エンペラドール’および‘カイゼル’では生育が旺盛で、節数が著しく少なく、平均



写真 栽培後期の根の様子

(左：トナシム、右：エンペラドール)

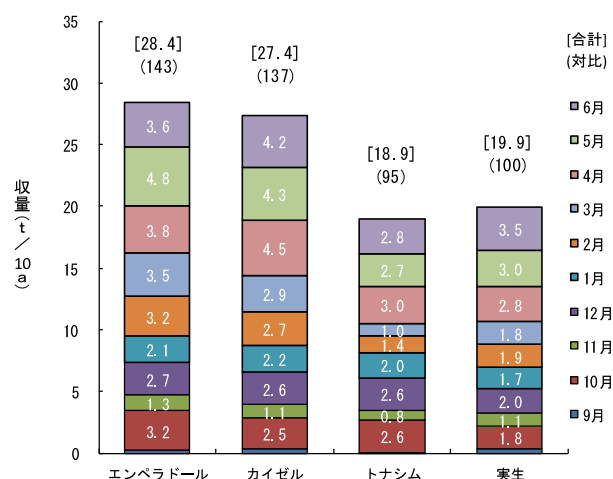


図1 台木の違いがナス‘土佐鷹’の可販果収量に及ぼす影響

節間長、葉長、葉幅が著しく長くなりました(表1)。10a当たりの可販果収量は‘エンペラドール’で28.4t、‘カイゼル’で27.4tと著しく多収となりました。特に強勢台木では12～2月も合計収量が多く、培地温度が低下しやすいラッピング培地における有効性が明らかとなりました(図1)。

今後も養液栽培に適した、ナス多収生産技術の開発に取り組んでいきます。

(先端生産システム開発担当 浅野雄大

088-863-4918)